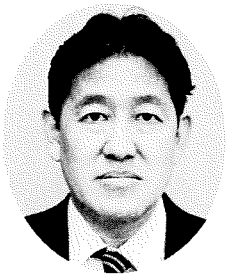
第　61　号
松里中ＰＴＡ
発行者
樋　口　喜　仁
編集者
ＰＴＡ文化部

一年間を振り返って



ＰＴＡ会長　樋　口　喜　仁

はじめに、日頃より地域の皆様には、本校の生徒に対し、温かいご支援・ご指導・ご協力を頂き誠にありがとうございます。ＰＴＡを代表しお礼申し上げます。

今年度は、一昨年前から続く新型コロナ感染症・変異株の影響で昨年度同様に異例ずくめの一年でした。入学式は感染対策に注力する中で、内容も簡略化せざるを得ない部分もありましたが、例年通り無事にかつ厳かに行われました。二学期になってからも感染防止対策の強化を強いられて、松風祭では、体育祭・文化祭・後夕祭を同日に行い無観客で開催されることになりました。各学年の生徒たちは、限られた時間のなか、工夫して協力し合い効率よく準備していました。松風祭は一日の開催になってしまいましたが、最高の思い出になったようです。

強歩大会は中止になってしまい、伝統ある松里中学校の強歩大会が開催されなかったわけですが、来年は地域の皆様と一緒に、生徒が頑張って走る姿を見て応援していき、感動を頂きたいと思います。

毎年恒例の有価物回収は、地域住民の皆さまや保護者の皆さまにご協力を頂き、おかげで無事に昨年を超えるほどの回収ができました。生徒にとって地域住民の方々のご理解とご協力を感じ、又環境問題や社会貢献を考える良い機会だと思います。今後もぜひ続けて頂きたいと思います。

部活動等の面では、練習時間の制限がある中、各運動部・文化部、又学業等で素晴らしい成績をあげることができました。正面玄関には、表彰旗を始めトロフィーや輝かしい表彰状がたくさんあり、一年間の活躍を物語っています。改めて松里中学校の素晴らしさに感心させられました。生徒の努力はもとより、先生方のご指導の賜物だと思います。松中ＯＢとしても大変誇りに思い、感謝の気持ちでいっぱいです。

令和七年度には、甲州市内の中学校の統廃合の計画があります。生徒数の減少や教育の格差をなくすため、又変わり行く社会情勢の為やむを得ないことだと思います。保護者として三年間携わってまいりましたが、少人数でなければなしえなかったこともたくさんあったように思います。松里地区というのびのびとした環境の中、全員が協力し助け合える校風のある中学校だと思います。廃校になるのは、寂しく残念なことです。何とか存続してもらいたいと思ってしまいます。統廃合まで残りわずかですが地元住民として少しでも協力出来たらと思います。

一昨年前から続くコロナ禍でいまだ出口が見えない災害の中、ＰＴＡ会長という大役を頂き色々なことを学ぶことが出来ました。次年度も変異株の感染対策の中で模索が続くかと思いますが、引き続きＰＴＡ活動が充実したものとなりますよう、皆さまのご指導とご協力、ご支援の程よろしくお願いいたします。そして三年生の皆さん、この学び舎で出会えた先生方や友達と協力し合い経験したことを忘れずに、今後行き詰まった時には思い出してください。無限の可能性を信じて前向きに大きく羽ばたいてください。

最後に清水校長先生、三井教頭先生を始めとする先生方、保護者・地域の皆様には、一年間ご支援ご協力いただきまして、この場をお借りして心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

「歩はやがて金となる」

校長　清水岳人

「吹きすさぶ海風に耐えし黒松を永年（ながとし）かけて人ら育てぬ」と平成天皇が詠ったこともあるほど、我が国有数の強風地帯であるえりも岬。風速10メートル毎秒の風が吹く日が２６０日を超える、この北海道えりも町えりも岬が、私が生まれた場所である。えりもの夏の風物詩は昆布漁。私の実家も昆布漁業に携わっていたため、夏休みは天日干しなどの加工の手伝いが日課だった。秋は鮭漁や花咲蟹で賑わう。夏季は過ごしやすく、爽やかな風に吹かれながら、海岸を駆けたことも幼少期の思い出の一つである。しかしなんと言っても厳冬の記憶は格別だ。マイナス20度の北海道の冬は山梨のとは世界が異なる。全てが凍り付き、一面銀世界。当然長い冬を家中で過ごすこととなり、子どもながらに退屈を凌ぐ工夫をして暮らしていた。中でも父の手ほどきを受けて始めた将棋には格段の熱を上げ、一人詰め将棋に没頭した。そして、近所のおじさんや上級生でも、相手を見つければ生意気にも勝負を申し出ていたものである。

そんな幼少期を過ごした私だが、高校進学と同時に一人暮らしを始め、えりもを離れた。音楽やラグビーとの出会いを迎え、いつしか将棋への熱は少しずつ冷めていった。

そして長い年月が過ぎ、今から5年程前、藤井聡太という最年少棋士の誕生をニュースで知った。藤井聡太氏は当時14歳。あどけなさの残る面持ちでありながら、デビュー以来、プロ公式戦29連勝の新記録、三冠、四冠、と数々の快進撃を見せる彼に私は釘付けになった。現在は最年少五冠となり、序列1位の最年少竜王棋士まで上り詰めている。私は藤井氏の将棋を欠かさず観戦するようになった。藤井竜王の魅力はまずはなんと言っても、その謙虚さである。「今は棋力を高めたい」「望外な結果です」「幸運でした」「タイトルホルダーになりたいのではなく、ただ強くなりたい」「高みの景色を見てみたい」という言葉から、決して奢ることのない真摯に将棋と向き合う姿勢が伺える。

ニュースやメディアで日夜取り沙汰され、今や日本中で知らない人はいないと言うほどの時の人となった。その絶対的な強さへの研究や分析があらゆる角度から行われ、藤井竜王に関する書物も多数発刊されており、藤井竜王みずからさまざまな専門家との対談もしている。

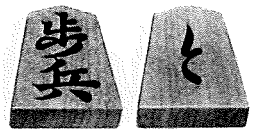
「藤井聡太はなぜ勝ち続けられるのか。」私が大変興味深く思った一説に「考え続ける力」について述べたものがある、藤井氏は格式高い詰め将棋大会で、5連覇（現在連覇中）を成し遂げるなどの実績がある。幼い頃から暇さえあれば詰め将棋の本を開き、黙々と解いていたそうである。（彼の実力とは比較にはならないが、私の幼い頃の思い出と重なり、一ファンとして嬉しさを覚えたのは言うまでもない。）詰め将棋に取り組むことで、長い時間をかけて一人、考え続ける力が鍛えられてきたのだという説である。一方で将棋の世界には「長考に妙手なし」という古くからの格言がある。プロの棋士なら、ある局面で指すべき候補が直感でいくつか思い浮かび、長考するのは未熟であるという考え方が主流とされてきた。よって、これまでの棋士たちは直感力を鍛えることが求められ、そのための研究や努力をしてきたのである。しかしながら藤井竜王は長考派。一手指すのに30分を超えると「長考」と言われる将棋界において、2時間もの長考記録もある程だ。「考えて考えて、それでも考え抜く」。直感で手が浮かばないのではなく、直感で浮かんだ手も疑って考えるのをやめない。吸い込

まれるようにじっと盤を見つめ、自分との対話を粘り強く行う。極限の集中力。まさに静謐ながら激しい闘いを繰り広げているのだ。

もう一つご紹介させていただくとすれば、「AIの進化」を理由に挙げる説。AIがない時代、将棋は師匠や兄弟子から手解きを受け、自分で棋譜を並べ、膨大な時間を費やして研究に打ち込んだ。しかし、次の一手の正解は人によってまちまち。果たしてあっているのかどうか…。試行錯誤しながらも論理的に整理し、自分の解釈と照らし合わせる必要があった。しかし、現在AIの発達により、正誤が瞬時に打ち出される。今まで教わった教えとは異なった答えをAIが導くことも多々あるようだ。藤井竜王は「AIは素晴らしいツールで、その登場により将棋が新たなフェーズに突入したことは間違いありません。しかし私はAIが全てではないとも思っています。将棋は人間と人間が盤を挟んで戦うもの。人間にしか感じ取れない空気感、目に見えない恐怖心、盤面で繰り広げられる壮絶な戦い、そして、それら全てを孤独の中で決断しなければならない大局観をAI自身が完全に実現させることは難しい。」というようなことを語っている。

説明は割愛するが、彼のAIの活用方法も独創的で「常識をくつがえす革新的な一手」はAIの特性を熟知し、人知れぬ努力を基板に己の探究心を磨き続けているからこそ、実現できるのだと言える。

彼は平成の将棋界を牽引してきた、ただ一人の七冠棋士である羽生善治九段をも凌駕するであろうと言われている。驚異的な探究心と粘り強さを持ち合わせた令和の時代を生きる将棋界の開拓者、藤井聡太氏。教育界においても、令和の時代を開拓するヒントが彼から得られそうである。



学び

PTA副会長　川村幸子

勉強ができる人、というのはどんな人？地頭がいい人？それとも長時間机に向かう根性がある人？

それは「自分の勉強法」を確立している人だと私は思う。勉強とは、新しい知識を得て、それを理解していくことで、このプロセスを短時間、かつ効果的に行うための方法が「勉強法」。つまり、勉強ができる人とは、自分にとって最適な方法をわかっていて、それに従って進んでいける人ではないのでしょうか。

高校生ともなると、学習する内容は濃くなり、国語は「現代文」と「古典」、数学は「数I」と「数A」、理科では「物理」「生物」「化学」「地学」というように、専門科目に分岐していきます。次々と増えていく学習量についていくことができずに、理解できないまま授業が進んでいってしまうことになり、油断していると、自身を失いやすくなる環境と言えるのではないでしょうか。高校の学習内容は難しいだけでなく、量も非常に多いので、全てを丸暗記したり、問題集を最初から最後まで全て解くような「完璧主義」的な勉強法をしていると、時間が足りなくなってしまいます。

今、世界中が新型コロナウイルスに翻弄されています。思うように勉強ができないこともあるかと思いますが、くじけず、「ピンチはチャンス」と捉え、見方を変えれば、今回の出来事は、新しい時代への変革を加速するものなのかもしれません。

「人間万事塞翁が馬」という言葉がありますが、今回の経験は、皆さんの今後の人生において、大きな学びとなり、そしてその学びは、皆さんの人間としての幅を広げてくれることでしょう。

順境にあって侮らず、逆境にあって焦らず、常に前を向き、一歩一歩着実に歩みを進めていくことを願っています。どうか感謝の気持ちを忘れず、人の痛みを感じ取れる「豊かな感性」と、冷静に考え行動できる「本物の知性」を持ち続けて下さい。それが皆さんの、輝く未来へのパスポートとなるでしょう。

学年部この一年

はじめての中学生活

一学年部長　**住　友　徹　也**

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症により子供達は不安な門出になったかとも思います。

そんな中でも子供達は一日一日と学校生活にも慣れ、新しい友達も出来て、充実した中学生活を送れている事をとても嬉しく思います。保護者としては学校活動を直接見る機会が少なく寂しく感じられる事が多々ありましたが、子供から聞く学校の様子は楽しげで、制約の多いこの状況下で先生方が最大限の努力をしてくださっている事が感じられた一年でありました。

さて、子供達は来年からは新入生を迎え「先輩」として松里中学校のお手本となる立場になります。それぞれが責任と自覚を持って行動し、他人を思いやる気持ち、自分で考える事の大切さを是非学んでいってもらいたいと思います。そして、色々な事に、挑戦・体験をして制約下の中でも実りある学校生活にしてもらいたいと思います。

今後も子供達の成長を日々、楽しみながら見守っていきたいと思います。

最後になりましたが、一年間運営にご協力頂きました保護者の皆様方、ご尽力賜りました先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

この一年、そして次の一年

二学年部長　**小　島　裕　治**

この二年間ほど、学校行事が中止、縮小が多かった年はなかったのではないでしょうか。

学年役員としても学校に出向く機会がとても少なく、あれよあれよという間に一年が過ぎてしまいました。それでも生徒達に出来る限り日常に近い学校生活を送っていけるように数々の努力、工夫を惜しまない学校の皆様に深く感謝いたします。

来年度はいよいよ三年生になります。最終学年は修学旅行があり、部活動も主力として試合等に臨む事となりますが、このコロナの状況は劇的に改善する事もないと思います。マスコミによる、はやり病ではなくアオリ病の報道も変化はないと思います。私事ですが長女の高校では、修学旅行は中止となり卒業していきます。今でも残念な出来事です。

来年度の行事についても様々な制限がかかってくると思いますが、どうか生徒に多くの行動の機会を与えてください。親として前向きに協力していく所存でございます。

最後になりましたが、この一年のご協力に感謝いたします。

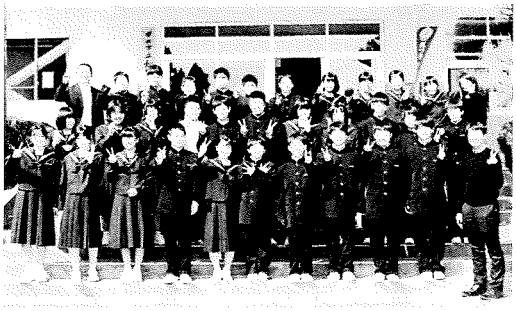
ありがとう

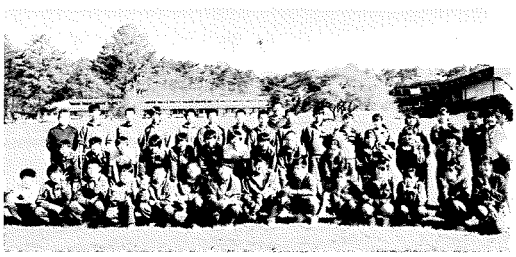
三学年部長　**久保寺　加奈子**

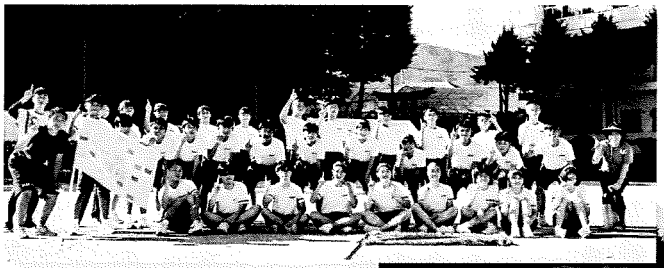
義務教育最後の一年、親としては感慨深いものがあります。子ども達の活動にもすべて「最後の」という言葉がつきます。期待を膨らませて始まったものの、修学旅行の延期や部活動での制限、無観客での松風祭など、まだまだコロナ感染症の影響が続きました。しかし、子ども達は限られたなかでも学校生活を思う存分に楽しみ、友情を深め、学業に励み、部活動に汗を流し、日々輝いていました。

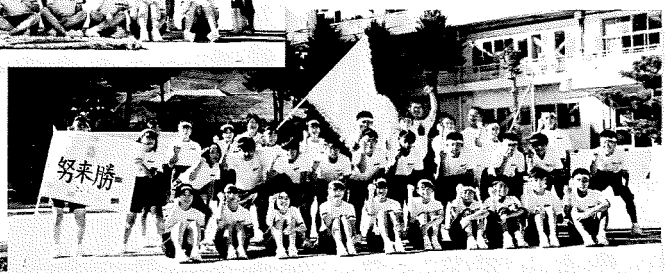
子どもの成長がますます頼もしくなっていきました。親はその姿に安心し、パワーをもらっています。一生懸命に子育てをやっているつもりですが、実は私達親の方が子供に教えられ考え悩み、日々成長しているのかもしれません。

我が家は末っ子が卒業なので、松里中学校とはこれでお別れとなります。年々生徒数は減少し、どこか寂しく感じることもありました。しかし、いつの時代も松里中学校にいる先生方は、子ども達を温かく見守り、時には厳しく指導してくださり感謝しています。ここでの経験が子ども達の力となり、さらに飛躍することと思います。本当にありがとうございました。








努来勝

卒業するわが子へ

卒業おめでとう。中学校で学んだ事を忘れずにこれからも夢に向かって頑張ってね。美来の笑顔はみんなを幸せにするよ。

秋山　智・順子

豪生、中学卒業おめでとう。色んな事があった三年間、毎日近くにいて成長していく姿を見るのが楽しみでした。高校生活も頑張れ‼

有賀　孝生

今年の干支は「虎」色々な事にトライしてみよう。そしてお世話になった先生方や周りの人々には常に感謝の気持ちを持ち続けよう。

飯島　美智子

清、ぶれない自分の軸を持とう。今後も、誰にでも手をさしのべられるしなやかな人間になってほしい。卒業おめでとう。

飯島清樹・容子

郁、たくさんの笑い、そして汗と涙が人生の糧になる。いつもチャレンジして豊かな人間になってほしい。卒業おめでとう。

飯島清樹・容子

卒業おめでとう。ぶつかった壁を乗り越えてきたから今の優がいると思います。これからも挑戦、経験する気持ちを忘れずにいてください。

飯島圭一・志保

卒業おめでとう。勉強に部活と頑張った三年間でしたね。高校でも自分の夢に向かって色々な事に挑戦してください。応援しています。

飯島達也・春美

中学校卒業おめでとう！三年間、勉強・部活・生徒会によく頑張ったね。高校は自分の夢に向かって選んだ道。海努らしく頑張ってね。

大橋　努

卒業おめでとう。末っ子の甘えん坊だったななも、もう高校生ですね。自分で考え行動できる人になってください。応援しています。

加賀爪　みどり

卒業おめでとうございます。義務教育も今日で終了です。これからは、やりたい事をみつけ自分の可能性を広げていってください。

風間　基予子

この三年間で学んだこと、出会った友人、支えて下さった先生、すべてが人生の財産です。これからの活躍を楽しみにしています。

川村　幸子

卒業おめでとう。苦しい三年間でしたね。それでも、よく頑張り続けました。この先の生活は、目一杯楽しんでください。

清雲敬真・和香子

卒業おめでとう。これからも笑顔いっぱい、ポジティブ思考でいきましょう。いつでも美しい月が見守っています。応援しています。

久保寺誠・加奈子

三年間よくがんばりました。自分の意志をしっかりもって高校生活も過ごしていってください。これからも応援しています。

小泉　明香

高校へ行っても部活に勉強にがんばれ！母はいつでも春太を応援しています。

後藤　由美子

卒業おめでとう。目標に向かってたくさんの事にチャレンジして新しい生活を楽しんでね。私達はいつでも莉乃の味方だよ。

後藤正広・美保

フレー！フレー！杏里！フレッ！フレッ！杏里！フレッ！フレッ！杏里！頑張れ！頑張れ！杏里！頑張った！頑張った！杏里‼

小林　宏至

卒業おめでとう。三年間よく頑張りました。次のステージの新たな挑戦を応援しています。

小林　孝則

華菜、卒業おめでとう。何事にも一生懸命頑張る姿に感動を覚えました。これからも自分に負けず前を向いて夢に向かって突き進んでね。

五味啓介・朋子

桃菜、卒業おめでとう。我が道を突き進む姿に成長を感じました。これからも夢に向かって妥協することなく自分の進むべき道を歩んでね。

五味啓介・朋子

卒業おめでとう。「一期一会」一生に一度の色んな出会いを大切に、笑顔で次のステージを京介らしく楽しんでください。応援するね。

坂本利一・恵美

卒業おめでとう。三年間で学んだ事、出会った友人やお世話になった先生への感謝の気持ちを忘れずに、高校でも頑張ってください。

下田達也・一世

卒業おめでとう！初めての受験で頑張っている姿に成長を感じました。この経験を活かし楽しい高校生活になるよう応援しています。

高橋明美

卒業おめでとう。高校でも沢山の友人と、充実した学校生活を送ってくださいね。あなたの素直さは、素晴らしい財産です。頑張って！

田口由季

卒業おめでとう。長い人生、自分のペースで一歩ずつ進んでください。応援しています。

田辺和也・真由美

卒業おめでとう。これから今まで以上に自己との戦いです。感謝の心・素直な心を忘れず自分の夢を掴んでください。

手塚　稔・真由美

美裕卒業おめでとう！三年間の思い出を、大切にしてこれからも自分の夢に向かって進んでください。いつも応援しています。父母より

手塚達也・恵子

入学し三年間で学んだ松里中学校での生活は大切な人生の一ページです。卒業本当におめでとう。

中村千津子

悠斗、卒業おめでとう。新しい環境になっても素直な気持ちで進んで行ってください。応援しています。

西川　輝

自分で決めた道を楽しく全力で突き進んでいこう。佑菜なら頑張れる！これからもみんなで応援してるよ。卒業おめでとう。

西本　圭・梓

ゆっくりでもいい、一歩一歩自分の信じた道を歩南らしく笑顔で進んでいってください。みんなで応援しています。卒業おめでとう。

樋口喜仁・久王子

卒業おめでとう。色々あったけど自分の努力で乗り越え大きく成長したね。自信を持って新たな一歩を進んでください。応援しています。

樋口　司・真紀子

卒業おめでとう。元気が一番！元気があれば何でもできる！

古屋　明・恵理

大きな制服に身を包み、入学してから三年間で、心身共に大きく成長した姿がとても眩しく又たのもしく感じます。卒業おめでとう！

保坂　美津子

卒業お目出度う！新しい環境でやりたい事、目標を持ち続けられるように新たな気持ちで頑張ってね。皆応援してるよ！

渡辺亮二・恵子

【特　集】

関東大会出場（ハンドボール）……手塚和真
関東5位入賞（水泳）……小林杏里
関東大会出場（陸上）……西本佑菜
生徒会会長……大橋海努
生徒会副会長……保坂凰太
生徒会……飯島清

関東大会出場

手塚和真

私たちハンドボール部は「県総体優勝、関東大会出場！」を目標に掲げ、練習に励んできました。チーム結成時は、上手くパスがつながらず、思い通りのプレイにならないことがたくさんありましたが、チームでコミュニケーションを深め、プレイに関する話し合いの機会を持つことで、仲が深まり、試合においても息が合うように変わっていきました。ハンドボールは声を出しコミュニケーションをとることが大切なスポーツです。常に、声で仲間と状況・情報を共有することを、一番心がけてきました。おかげで、県選手権では1戦1戦が接戦でしたが優勝することができました。でも私たちの目標は県総体での優勝です。そこで、1つのプレイをチーム全体が理解し、全員で守り全員で得点することを意識して練習しました。最後まであきらめず、チーム一丸で戦った県総体は、優勝をおさめ関東大会出場につながりました。

これまで、私達を支えご指導くださった先生方、多くの方々の応援のおかげだと深く感謝しています。関東大会では、自分たちの未熟さを実感しましたが、「もっと強くなりたい、もっと上を目指したい」という思いが大きくなりました。松里中で学んだ経験をいかし、高校でもハンドボールを続けていきます。胸を張って精一杯頑張りたいと思います。

悔しさをバネに、新たな目標実現へ

小林杏里

今年度は悔しい思いをたくさんする年となった。何より悔しかったのは、全国中学水泳競技大会出場という目標を叶えられなかったこと。例年より力を入れてきた夏の県強化合宿の成果は出ず、一緒に練習をしてきた仲間と共に涙を流した。関東大会では2位通過で1位を狙っていた800m自由形はコロナウイルスの影響で急遽棄権することになってしまった。悔しさいっぱいで我武者羅に泳いだ400m自由形ではベスト更新と5位入賞をすることができた。

初めて選ばれた国民体育大会。それも中止となってしまった。

高校生になってからの目標。それはインターハイ出場。有言実行。悔しい思いはしたくない。結果を残す。私のすべきことはただそれだけ。応援を無駄にせず、結果に変える。水泳をさせてくれる家族、支えてくれているすべての人への感謝を忘れず、自分にできることを一生懸命する。2022年はそんな年にしたい。水泳だけでなく、礼儀や人間性も磨いていきたいと思う。卒業してからはそれぞれ違う道を進んでいく仲間を応援できる人になり、誰かの憧れになれるような人になっていきたい。

三年間頑張った陸上

西本佑菜

「なかなかタイムが出ない。」これが私の悩みだった。中学での最後の陸上。今までで一番良い記録が出せるように毎日の練習をかかさず行い、力を入れた。しかし、自分が思うような結果が出ない。何がだめだったのか考え、練習の内容を変えてみたりした。でもだめだった。自分は本気で走っているつもりなのにベストタイムより10秒近く遅くなる

ことが多くなった。だんだんと走るのが嫌になった。

関東大会をかけた最後の県総体。ぎりぎり県予選を通過でき関東大会へ出場することができた。出場できたがやはり関東のレベルは高かった。走るのを嫌になっている私に両親が「調子が上がってタイムが伸びる時が来るから今は頑張って。」と声をかけてくれた。もう一度頑張ってみようと思った。最近は大会に出るたびにベストが出るようになり調子が上がってきている。走ることが楽しくなり、中学でやめようと思っていたが高校でもやろうと決めた。

私がここまで陸上を続けてこられたのはたくさんの人たちが支えてくれたおかげだと思う。高校ではさらに練習を頑張り、全国レベルでたたかえる選手へと成長していきたい。

生徒会長としての成長

大橋　海努

私はこの一年間生徒会スローガン「輝跡」のもと、生徒会長という立場で生活を送ってきた。そんな一年の中で私は印象に残った活動が二つある。一つ目は、「三送会」だ。初めて自分達の力だけで企画、進行するので不安が大きかったり、分からない事が多かった。何度も失敗し、うまくできない事も多かったが、話し合いや自分達の初めての活動を最後までやり遂げ、そして三送会での目標である三年生へ感謝を伝えることができたからだ。二つ目は生徒会最大の行事である「松風祭」だ。まず私達三年生にとって最後の松風祭だったので、今までにはない最高の松風祭を創り上げたい気持ちで全力で取り組むことができたからだ。コロナウイルスにより、クラス合唱や体育の部でも短縮されたり制限がかかっていてとても悔しい思いをしていたが、その分自分達にできることに限界まで挑戦することができた。また、うまく全校をまとめられない時もあったが、話し方や姿を工夫するなどし、やり遂げ成長することができたと思う。この一年間生徒会長として学べた事は多かった。今後の生活で何度も苦戦することが多いと思うが、この経験を生かし頑張っていきたい。

生徒会副会長で学んだこと

保坂　凰太

私は生徒会本部に入り、自分の成長とともに松里中学校を引っぱっていくことを目標に活動してきました。一年間の中で様々な活動をしてきましたが、特に三送会と松風祭が印象に残っています。

三送会は生徒会役員になって初めての活動で緊張もしましたが、それ以上に胸が高鳴りました。私が一年生の頃のものに比べ、自分たちが作り上げたという達成感や準備での苦労などから大きな喜びを感じました。また、一から作り上げる楽しさや難しさも学ぶことができました。

次に松風祭ではコロナウイルスにより無観客や様々な制限の中、最大限の活動ができるよう生徒会役員全員で努力をしました。上手くいかない場面も少々ありましたが、最高と思えるような松風祭を作り上げることができました。

私は元々人前で話すことが苦手でした。しかし生徒会副会長になり、たくさんの経験をつみ、人前で話すことに抵抗がなくなったと感じています。また自主的に行動するという姿勢を身に付けることができたと思います。最後に生徒会の仲間と有意義な時を過ごすことができ、本当にうれしかったです。

一年を振り返って

飯島　清

今年度はスローガン「輝跡」のもとで、全校で様々な生徒会活動に取り組みました。その中で、私が特に心に残っている活動が二つあります。

一つ目は、松風祭です。コロナ禍での取り組みだったので、常に密にならないよう距離をとったり、手指消毒をしたりして、感染対策を徹底しました。合唱に代わる新しい学年発表の形として音楽をテーマにボディパーカッションやダンス、合唱を取り入れたり、体育の部ではミッ

ションリレーや玉入れなど新しい競技も行ったりしました。やりたいことを思いきりできる状況ではありませんでしたが、制約があったからこそ一人一人ができることを探して工夫を重ねた松風祭になりました。

二つ目はＳＤＧｓの活動です。学校で初めて取り組む活動だったので、講演を聞くなど知識を得ることから始めました。学校生活をよりよくしていけるようぜひ来年度も続けてほしいと思いました。

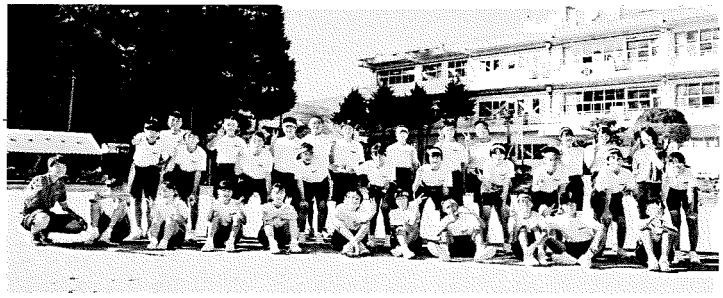
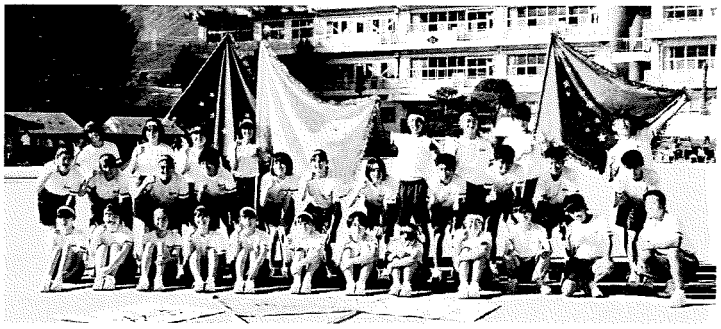
一年の生徒会活動を振り返ると、私にとってどの活動も輝跡として思い出に残るものばかりです。貴重な経験をさせてもらえたことに感謝しています。

来年度からは新三年生を中心に、たくさんの活動を通して思い出に残る学校生活を送ってほしいです。

編集後記

文化部副部長　飯島春美

地域で会う松中生はいつも元気に挨拶をしてくれます。とても気持ちがいいです。先日も私が犬の散歩をしていると、自転車に乗った松中生が「こんにちは」と挨拶をしてくれました。そして少し前を歩いていた七～八十代の女性にも同じように元気に挨拶をしていきました。すると、その方は少し驚いた様子で立ち止まり、「こんにちは、おばあちゃん嬉しいわ～」と、通り過ぎた中学生の後ろ姿に向かって声をかけていました。コロナ禍での生活が続き、人との繋がりが希薄になる中で、何とも暖かい気持ちになりました。

二〇二一年は前年に引き続き、新型コロナウイルス感染の波に左右された一年でした。今まで当たり前だと思っていた日常がどれだけ尊いことかを改めて感じ、人との繋がりや健康でいることの大切さを痛感する日々です。今年度もＰＴＡ行事はほとんど開催できませんでしたが、二〇二二年度は穏やかな年になることを願うと共に、松中生にはこの学び舎で充実した中学校生活が送れることを願っています。

最後に、先生方をはじめ保護者の皆様、地域の皆様方にはＰＴＡ活動にご支援、ご協力いただき心より御礼申し上げます。